

情報公開文書

研究の名称	ヘッズアップ手術を用いた強度近視眼の牽引性黄斑症の治療成績の検討：多施設後ろ向きカルテ調査
研究代表機関	富山大学附属病院
研究責任者（所属・職名および氏名）	学術研究部医学系 眼科学講座 教授 林 篤志
①試料・情報の利用目的及び利用方法（他機関への提供方法を含む）	この研究は富山大学臨床・疫学研究等に関する倫理審査委員会の承認および研究機関の長の許可を受けて実施しています。 【研究の目的・方法】 強度近視（眼軸長が 27mm 以上と非常に長い近視）では、目の奥の網膜が引っ張られることで「牽引性黄斑症（MTM）」という病気が起こることがあります。この病気は、物がゆがんで見えたり視力が低下したりする進行性の病気であり、治療には眼内の手術（硝子体手術）が行われます。 近年、「ヘッズアップ手術（3D デジタル手術システム）」という、高解像度の大型モニターを見ながら手術を行う新しい手術方法が広がっています。この方法は従来の顕微鏡を直接のぞく方法より鮮明に手術部位を確認でき、強度近視の手術に特に有用と考えられますが、強度近視の MTM を対象とした多施設でのデータはまだ十分ではありません。 本研究では、3 施設（富山大学附属病院・愛知医科大学病院・石田眼科）の診療録を振り返って調査し、ヘッズアップ手術による MTM 治療の成功率・術後視力・術後経過を調べます。データは個人を特定できない形に加工（研究用番号への置き換え）した上で富山大学で解析します。 【研究期間】 実施許可日 ～ 2028 年 3 月 31 日 【研究対象者】 各施設において、眼軸長 27.0mm 以上の強度近視と診断され、光干渉断層計（OCT）検査で MTM（黄斑分離・牽引性黄斑剥離・黄斑円孔±網膜剥離）と診断され、ヘッズアップ手術システムを用いた初回硝子体手術を受けられた 20 歳以上の患者様のうち、術後少なくとも 3 か月以上の経過観察記録がある方が対象となります。 【研究資金・利益相反の状況】 本研究は眼科学講座の医局・講座費により実施します。本研究に関し

	て申告すべき利益相反はありません。 【個人情報の取扱い】 診療録から収集したデータは、氏名・診療録 ID などの個人を直接識別できる情報を削除し、研究用識別番号に置き換えて管理します。対応表は各施設で厳重に管理し、研究代表機関（富山大学）には提供しません。 【研究結果の公表の方法】 研究結果は学会発表または医学雑誌への論文掲載により公表します。その際、個人を特定できる情報は一切含まれません。 【試料・情報の他機関への提供有無】 有（ただし外国への提供は含まない） 【外国にある者への提供について】 該当なし
②利用又は提供する 試料・情報の項目	【試料・情報の項目】 年齢、性別、眼軸長（目の長さ）、術前・術後の視力、眼圧、光干渉断層計（OCT）による眼底所見、手術方法（内境界膜処理の有無・ガスの種類等）、術後経過、術後合併症の有無
③利用又は提供を 開始する 予定日	【利用又は提供を開始する予定日】 倫理審査承認・実施許可後、速やかに開始
④試料・情報の提供を 行う 機関の名称及び その長の氏名	提供元機関（各共同研究施設）： ・愛知医科大学病院長 ・石田眼科（石田院長） （富山大学附属病院は提供を受ける側であり、代表機関として集約・解析を行います）
⑤提供する試料・情報の 取得の方法	各参加施設において、電子カルテおよび手術記録から診療情報を後ろ向きに収集します。収集したデータは各施設で個人を特定できない形（研究用識別番号）に加工した上で、富山大学附属病院に提供されます。
⑥利用する者の範囲	本研究を実施する以下の共同研究機関および研究責任者が利用します。 ①富山大学附属病院 学術研究部医学系 眼科学講座 教授 林 篤志 ②愛知医科大学病院

⑦試料・情報の管理について責任を有する者	眼科 （担当研究者：瓶井 資弘） ③石田眼科（新潟県上越市） （担当研究者：石田 誠夫） 委託業務はありません。
	富山大学附属病院長 林 篤志
⑧研究対象者等の求めに応じた利用停止・お問い合わせ窓口	研究対象者に関する試料・情報を当該研究に用いること（他の研究機関への提供も含む。）に対して、拒否をご希望される場合や研究資料の入手・閲覧を希望される場合は、以下の窓口へご連絡ください。 電話番号：076-434-7363 FAX：076-434-5026 E-mail：hkusaka@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名：学術研究部医学系 眼科学講座 医員 日下 紘貴